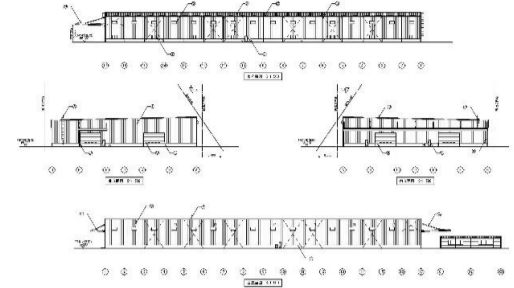


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)一宮土地建物(株)物流倉庫	階数	地上1F
建設地	愛知県一宮市大和町馬引印田33番1 他10筆	構造	S造
用途地域	用途地域指定無し、防火地域指定無し(22条地域内)	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年9月 予定	評価の実施日	2022年1月24日
敷地面積	8,126 m ²	作成者	佐藤 月音
建築面積	5,505 m ²	確認日	2022年1月24日
延床面積	5,505 m ²	確認者	佐藤 月音



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 1.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; color: green;">15.3 %</p> </div> <div> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; color: green;">0.0 %</p> </div> </div>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.9	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1	室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	
1.2	遮音			-	-	-	-	-	-	
1	開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	
2	界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
1.3	吸音			-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1	室温制御			-	-	-	-	-	-	
1	室温			3.0	-	-	-	-	-	
2	外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	
3	ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	
2.2	湿度制御			3.0	-	-	3.0	-	-	
2.3	空調方式			3.0	-	-	3.0	-	-	
3 光・視環境										
3.1	昼光利用			-	-	-	-	-	-	
1	昼光率			3.0	-	-	3.0	-	-	
2	方位別開口			-	-	-	3.0	-	-	
3	昼光利用設備			3.0	-	-	3.0	-	-	
3.2	グレア対策			-	-	-	-	-	-	
1	昼光制御			5.0	-	-	3.0	-	-	
3.3	照度			3.0	-	-	3.0	-	-	
3.4	照明制御			3.0	-	-	3.0	-	-	
4 空気質環境										
4.1	発生源対策			-	-	-	-	-	-	
1	化学汚染物質			3.0	-	-	3.0	-	-	
4.2	換気			-	-	-	-	-	-	
1	換気量			3.0	-	-	3.0	-	-	
2	自然換気性能			3.0	-	-	3.0	-	-	
3	取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	3.0	-	-	
4.3	運用管理			-	-	-	-	-	-	
1	CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	
2	喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.43			3.5	
1 機能性										
1.1	機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	
1	広さ・収納性			3.0	-	-	3.0	-	-	
2	高度情報通信設備対応			3.0	-	-	3.0	-	-	
3	バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	
1.2	心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	
1	広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	3.0	-	-	
2	リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	
3	内装計画			3.0	-	-	-	-	-	
1.3	維持管理			-	-	-	-	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				0.5	2.9	0.52			2.9	
2.1	耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48				
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80				
2	免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20				
2.2	部品・部材の耐用年数			0.3	3.0	0.33				
1	躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.25				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	倉庫内プasterボード現し	-	2.0	0.25				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	4.0	0.10				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			-	-	-				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:硬質塩化ビニル、給湯:塩ビライニング鋼管	-	4.0	0.17				
6	主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.25				
2.4	信頼性			0.1	2.6	0.19				
1	空調・換気設備			3.0	-	-				
2	給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.33				
3	電気設備			3.0	3.0	0.33				
4	機械・配管支持方法	②		3.0	3.0	0.33				
5	通信・情報設備			3.0	-	-				

3 対応性・更新性			0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	倉庫階高:8m	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	② 倉庫天井無、露出配管	-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.60	-	-	-	
3	電気配線の更新性	倉庫天井無、露出配管	3.0	3.0	0.40	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	-	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性	倉庫内ラック上の配線	3.0	-	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	-	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	2.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	1.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=1	3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用			1.0	1.0	1.00	-	-	-	1.0
集合住宅以外の評価			1.0	1.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.0	1.00	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.09	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.32	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.27	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	-	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料の積極的採用	3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒		3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		① #DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			0.5	2.9	0.50	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を設置していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.5	3.1	0.50	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告物照明は無し	-	4.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)一宮土地建物(株)物流倉庫

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:15.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)一宮土地建物㈱物流倉庫

計画上の配慮事項	
総合	流通倉庫としての機能を果たす為に、倉庫内はワンルーム(区画免除)とし、荷捌用ホイストクレーンが回遊する計画とする。 敷地動線としては、事務所が立地する敷地南側を主動線とし、敷地北側はフォークリフトのみ走行する為の出入り口がある。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	空間にゆとりを持ち、荷重や設備配管の更新のしやすさを考慮。
Q3 室外環境(敷地内)	条例指導事項に見合う緑地面積、植栽の確保。
LR1 エネルギー	倉庫内は高天井用LED照明の採用。
LR2 資源・マテリアル	倉庫内の仕上は石膏ボード現しであり、分別が容易。 その他仕上に関してはグリーン購入品の採用を心掛けた。
LR3 敷地外環境	駐車場の附置義務はないが、敷地内に駐車場を設置。
その他	